

## 2018 年度 F D 実施報告書

<b>学部・学科</b>	栄養科学部・栄養科学科
<b>F D 取り組みへの理念・目標</b>	
<p>平成 30 年度 栄養科学科教育計画に基づき、栄養科学部栄養科学科教員の教育と研究における質的向上を目指して、様々な F D 活動を推進する。すなわち、①次世代管理栄養士育成のためのカリキュラム改革（重点項目）、②「食と健康」に関する研究プロジェクトの推進、③管理栄養士国家試験・教員採用試験の高い合格率維持のための教育技術の向上、を目指す。最終目標は、管理栄養士国家試験合格率 95%以上を維持すること、さらに、就職決定者数のうち、教職と公務員試験の合格者が 10%を確保することである。</p>	
<b>回数、期間、実施日等</b>	<b>実施事項・内容、実施組織、評価項目等</b>
<p>5 月 31 日 （第 1 回）</p> <p>6 月 28 日 （第 2 回）</p> <p>7 月 26 日 （第 3 回）</p> <p>9 月 10 日 （第 4 回）</p> <p>9 月 28 日 （第 5 回）</p> <p>1 月 24 日 （第 6 回）</p> <p>2 月 23 日 （第 7 回）</p>	<p>学科会議後に、F D 研修会を実施した。</p> <p>F D に関する相互理解を深めるため、「F D 用語」、すなわち、F D、ナンバリング、アクティブラーニング、ループリック、などについて、古賀教授（F D 推進委員）が資料を基に約 40 分間の説明を行った。</p> <p>教育方法改善の一環として、「コーチング」について、森口講師が資料を基に約 30 分間の説明を行った。</p> <p>三成学部長が、全国栄養士養成施設協会 第 60 回総会に出席した際に、そこで配布された厚労省作成資料「管理栄養士・栄養士養成への期待－管理栄養士を取り巻く最近の食と健康に関するトピックス」について説明を行った。</p> <p>「教育ワークショップ」において、実際の「ループリック」作成方法について学科全員で学習した。これをどのように学科で発展させるかが、今後の課題である。</p> <p>今井学科主任により、「平成 29 年度学生生活実態調査結果に係る改善について」の報告があった。F D と密接な事例が多く挙がっていた。</p> <p>教育現場での経験が豊富な萩尾准教授より、「大学で教えるときに役立つ授業方法と授業デザイン」というテーマで授業方法についての話があった（約 40 分間）。</p> <p>「合同研究大会」において、栄養科学科、フード・マネジメント学科および食物栄養学科の各教員の研究紹介が行われた。まずプロジェクト研究に関して、2 年間の研究成果が各研究代表者によって報告された（全体で 9 演題、うち栄養科学科は 5 演題。約 90 分）。次に、新任の沖智之教授が、「九州沖縄地域農作物の機能性評価とフィトケミカル分析」というテーマで講演を行った（約 20 分間）。</p>

**「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況**

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
授業科目の組織的な管理	ルーブリックの導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	<input type="checkbox"/> 未着手 <input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	
教育方法の改善	アクティブラーニング(特にPBL)の推進 PBL：課題解決型授業	<input type="checkbox"/> 未着手 <input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	ただし、化学実験では、すでに PBL は実施中である。いい結果が出ない場合、どこが悪いかを検討して、やり直しをしている。